

桜川文芸

俳句

【大和俳句愛好会】

観音の山より望む豊の秋

鈴木 つぎ

再会は出来ず文書く十三夜

安達 幸子

美しく老いたし菊の花ひらく

代田 とし

筆跡に老化の残る暑気便り

皆川 和子

旧校舎子らの足跡菊盛る

齊藤与誌江

筑波嶺の色の濃淡秋きざす

田中はつひ

【桜川岩瀬俳句会】

遠き世の小町の里に蛍舞う

菊池 すい

門閉じて暫し足止め夕月夜

大関しづ子

秋霖や子持女の長吐息

永瀬 ちい

しまい風呂大合奏のちちろ虫

上野 好江

よろこびの首傾げみる稲穂かな

細谷 充子

耳に残る胡弓の音や風の盆

長井 冬扇

短歌

【やまと短歌会】

初孫のしぐさを真似るわが娘伝はるよろこび我は曾祖母

鈴木 とみ

命あらば三度行きたし若き父の命果てたる戦場の跡

栗崎よしの

栗崎よしの

コスモスの野良道に咲くこの夕 友らは君を悼みつつ歩む

野村 幸男

野村 幸男

夫の背に蜻蛉止まり畦道をへ夕焼小焼く口遊みゆく

北条 正子

北条 正子

稲架を組む竹竿をのせりヤカーに草踏み分けて野良みち行きぬ

中島 龍子

中島 龍子

上弦の月に見られし露天風呂溢るる木船に五体沈めぬ

高橋ミツエ

高橋ミツエ

【岩瀬短歌会】

石榴の花落ちて地上になほ赤し風は緑の葉を透きて吹く

小林 むら

小林 むら

廃屋を覆い勢いの葛なれどうす紅色の小さき花見す

大久保富美江

大久保富美江

手を振りて息子家族を見送ればもとの暮しまたおひとり様

五月女静江

黄金田の稲穂にとんぼ止まりまた離れて止まり翅を震わす

渡辺しな子

渡辺しな子

ヒメジヨオン鉄道沿ひに丈伸びて真夏の貨車が音重く過ぐ

鈴木美津子

鈴木美津子

風死して奥の間もむつと熱こもるスパイスきかしてカレーつくらん

小林美瑛子

小林美瑛子

ぬげがらを庭の小枝にひっかけて青大将いづこにひそむ

片岡喜知子

片岡喜知子

行く夏を惜しむかの如き猛暑の日日エアコン生活いつ迄続くや

長谷川玲子

長谷川玲子

囲炉裏端に家族囲みて餅焼きくれし父母との生活も遠くになりて

安達すみ子

安達すみ子

漣のよする浜辺に人影もなく晩夏の海はヨット浮くのみ

石川 喜代

石川 喜代

お詫びと訂正

前月号の【真壁短歌会】の中に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

誤 目的をきりりと持つや涼し気に和服の女はわが前を過ぐ

服の女はわが前を過ぐ

根本 英子

根本 英子

正 目的をきりりと持つや涼し気に和服の女はわが前を過ぐ

服の女はわが前を過ぐ

増田 芳江

増田 芳江

不自由を常と思ひて過ごせしも女孫の晴れ姿両眼で見たり

根本 英子

有料広告掲載募集中!

お問い合わせは、秘書広報課へ ☎58-5111-75-3111、内線1268

広報 さくらがわ

有料広告掲載募集中!

お問い合わせは、秘書広報課へ ☎58-5111-75-3111、内線1268

広報 さくらがわ